

令和5年6月定例記者会見要旨(令和5年5月31日)

1. 中心市街地のまちづくりの構想において、持続可能なまちづくりのためには民間事業者との連携が重要になるとしている。事業を実施する民間事業者を選定するために行う本公募に先立ち、このたび仮公募を開始したが、仮公募のねらいと期待感をお伺いする。

本市は、「坂出市中心市街地活性化公民連携事業」について、「PFI法」に基づき公募型プロポーザル方式によって実施する民間事業者を募集、選定する予定としています。

民間事業者を募集、選定するために行う本公募に先立ち、仮公募を実施します。仮公募では、民間事業者のアイデア・ノウハウ・技術力・資金調達力などに基づく企画提案の募集を行い、市の意図を民間事業者に明確に伝え、民間事業者の創意工夫を最大限に引き出すことを目的に、守秘義務協定を締結して対話を実施します。本事業に関するより有効な条件やPFI事業としての実施可能性などを検討し、特定事業などを選定するとともに、市が求める業務内容の要求水準につなげることを目的として実施してまいります。

2. 4月と5月に実施した公共交通無料デーの実績は。

4月・5月で6日間開催した公共交通無料デーについて、ご報告させていただきます。

先月の定例記者会見でお答えいたしましたとおり、4月の3日間の開催実績は、4月9日(日曜日)が671人、4月19日(水曜日)が829人、4月23日(日曜日)が738人と、平常時と比べて、平日は約2倍、休日は約4倍の利用がありました。

5月の3日間は、4月を上回る利用をいただき、5月12日(金曜日)は、1127人、5月21日(日曜日)957人、5月27日(土曜日)は986人の利用がありました。

特に、与島において「せとうち島旅フェス」が開催された5月21日(日曜日)の瀬戸大橋線路線バス利用者は、356人と平常時の10倍以上の利用がありました。

また、毎月開催されている駅前の楽市楽座や、商店街の第4土曜デーとのコラボを行うことで、公共交通利用者とイベント来場者に相乗効果があったものと考えています。

私も、坂出駅のバスロータリーで公共交通無料デー当日の様子を確認しましたが、人々が行列を作ってバスを待つ、普段では見られない光景が見られました。

公共交通を使って移動するということは、移動先の目的地があってこそこのことなので、バスの無料化により多くの人流が生まれる坂出のまちのポテンシャルの高さを感じました。

また、心なしか公共交通無料デー当日は、中心市街地を歩く人が普段より多いように見られ、公共交通の利用促進は、ウォーカブルなまちづくりにも寄与するものと感じました。

今回の公共交通無料デーイベントを通じて、多くの方から公共交通に関心を持っていただけるとともに、まちに活気をもたらしたものと考えています。

これをイベント限りの一過性のものではなく、日常の光景に近づけられるよう、まずは今回のイベントの結果を分析したうえで、今後の効果的な公共交通利用促進施策を検討してまいりたいと思います。